19. NIDDM におけるインスリン分泌能について
—CPR secretion rate による検討—

山口卓秀，金塚　東，桜田正也
橋本尚武，岩岡秀明，平良真人
牧野英一，吉田　尚　（千大）

25g ブドウ糖又は1mg glucagon 静注時の末梢血中 C peptide 濃度より C peptide secretion rate を算出し，従来臨床的には困難であった詳細な insulin 分泌動態を解析し得た。NIDDM 患者にてもブドウ糖負荷時には正常と同様の時相で2相性の insulin 分泌を認めた。しかし第1相は著明に低下しており軽症よりも中等症に於いて著しかった。NIDDM 患者にては glucagon 負荷時の insulin 分泌も障害されており軽症より中等症に於いて著しかった。

20. NIDDM モデルラットにおけるインスリン抵抗性について
—Glucose clamp 法と PDE による検討—

岩岡秀明，牧野英一，橋本尚武
金塚　東，桜田正也，平良真人
山口卓秀，吉田　尚　（千大）

NIDDM モデル・ラットを作成し，インスリン抵抗性の有無について in vivo Glucose Clamp 法と in vitro insulin-sensitive phosphodisterase (PDE) を用いて検討した。Glucose Clamp 法にてインスリン感受性の指標である Glucose Disposal Rate 及び Metabolic Clearance Rate ともコントロール群と差を認めず，PDE 活性化系において差を認めなかった。以上より本モデル・ラットの耐糖能異常は，インスリン抵抗性によるものではない事が示唆された。

21. ヒトインスリンレセプター遺伝子における Restriction Fragment Length Polymorphism の検討

平良真人，牧野英一，橋本尚武
岩岡秀明，金塚　東，桜田正也
山口卓秀，吉田　尚　（千大）
蛯名洋介，島田典生
（熊大・遺伝研）

1985年，蛯名らにより，ヒトインスリンレセプターの cDNA がクローニングされた。その cDNA をプローブとして，インスリンレセプー遺伝子の RFLP について検討した。静脈より10ml ヘパリン採血をし，そこから DNA を採取して，数種類の制限酵素で切断した後サザンハイブリダイゼーションを行った。その結果，数種類の RFLP が見い出された。糖尿病発症と RFLP との相関は現在検討中である。

22. 老年者低血糖症の臨床的検討

森聖二郎
（東京都老人医療センター内分泌代謝科）

当院にて過去4年間に経験した低血糖症53症例（平均年齢76歳，男24例，女29例）につき，臨床的検討を加えた。その結果，老年者低血糖症の特徴として，(1) 非糖尿病のいかなる血糖降下剤も使用していない症例の占める頻度が高いこと，(2) 慢性疾患に伴う低栄養状態，及び肝機能障害が低血糖発症に大きく関与していること，(3) 低血糖時，交感神経系の症状に乏しく，容易に昏睡に陥る危険があること，等が示唆された。

23. 家族性高コレステロール血症患者に対する LDL 吸着療法

板谷喬起　（千葉市立）
篠宮正樹，神崎哲人，斉藤　康
吉田　尚　（千大）

症例は55歳女性と44歳男性。ともに陳旧性心筋梗塞の既往あり。血清総コレステロールはそれぞれ 387 と 395 mg/dl。体外循環にて血液を中空糸型血漿分離器に導き，血漿をデキストラン硫酸を含む LDL 吸着カラムを通して再び患者へ戻す。3l の血漿処理で総コレステロールは100mg/dl 前後に低下，治療前値に復する2週目毎に本治療法をくり返した。特に副作用なし。1年後にアキレス腱肥厚の退縮などコレステロール沈着の軽減がみられた。

24. 多量飲酒後高 CPK を呈した1例

宮城英慈　（松戸市立）

患者は48歳男性で，多量飲酒後，腹痛，嘔吐，無尿をきたした。某院にて試験開腹術を受けたが所見なく，術前より LDH 等の筋逸脱酵素の上昇がみられた。代謝性アシドーシスや低 Ca 血症も考え合わせ，アルコールによる筋融解，血中ミオグロビンによる急性腎不全の可能性が考えられた。本邦でもアルコール消費増大により，アルコールによる筋融解の症例が増えるものと考えられる。